

『マンダラの密教儀礼』（春秋社 1997年）正誤表

	誤	正
p. 100, l. 7-8	<u>護法神の・・・インドラ</u>	<u>シヴァ</u>
p. 123, 図 2	(図中の線)	外周部の幅を 2 倍にする
p. 123, 図 2	(図中の線)	対角線を梵線の $\sqrt{2} \times 1/2$ の長さにする
p. 123, 図 2	(図中の「根本マンダラ」の矢印)	根本線の内側にまで伸ばす
p. 125, 図 5	(図中の線)	対角線を梵線の $\sqrt{2} \times 1/2$ の長さにする
p. 127, l. 9	<u>この内部を根本マンダラと呼ぶ。</u>	(削除)
p. 127, l. 11	(「線となる。」のあとに追加)	<u>この内部を根本マンダラと呼ぶ。</u>
p. 135, 図 8	<u>ひづめ</u>	<u>クラ</u>
p. 147, l. 9	<u>赤い金剛杵</u>	<u>黒い五鈷杵</u>

p. 126, l. 16~p. 127, l 2

「対角線の二本の線は・・・最も近い整数である」を以下のように訂正

対角線の二本の線は門十七個分の長さ、すなわち六十八マートラの長さを持つ。これは後で述べる楼閣の対角線の長さ $48\sqrt{2}$ マートラにほぼ相当する。対角線が梵線よりもはるかに短いのは、実際に対角線を必要とするのが、楼閣の内部に限られるためである。基本的にマンダラの墨打ちでは、必要な線のみが引かれる。